

オプション検査 <項目・料金表>

消費税
10%

申込コード	検査名称	検査内容	内容説明	料金 (税込)	検査分類
OP01	大腸がん 便潜血検査	便潜血反応検査 2日法(ヒトヘモグロビン)	大腸がんなどを調べる検査です。 近年非常に増加傾向にあるがんのひとつとなっています。 検査方法は非常に簡単で便を少量採取するだけで、食事の制限もありません。また、人体のヘモグロビンだけに反応する検査をします。 専用容器に便を少量採取します。 容器内には保存液が入っていて、提出日(健診受診日)前の1週間以内に採取された検体であれば検査可能です。 生理中およびその直後の採便は避けてください。	1,650円	採便 容器
OP02	肺がん 喀痰検査	喀痰細胞診検査	肺がんなどを調べる検査です。 のどより下の気道からの過剰な分泌物が痰です。気道に異常があると、痰に異物や細胞が混ざってきます。喀痰細胞診はそのような痰に混ざっている細胞の性質が、良性か悪性を調べます。 専用容器に3日間分の痰を採取してください。	2,750円	喀痰 容器
OP19	腎・膵機能血液 検査セット	尿素窒素 e-GFR 尿酸 アミラーゼ	腎臓を調べる尿素窒素とe-GFR、痛風を調べる尿酸、膵臓を調べるアミラーゼの4項目をセットにした血液検査です。 ※各検査の詳細については「OP10・生活習慣病追加血液検査」をご参照ください。	550円	採血
OP16	ペプシノゲン 検査	慢性萎縮性胃炎 検査(ペプシノゲン法)	慢性萎縮性胃炎などを調べる検査です。 血液に含まれているペプシノゲンという物質の量を測ることで胃がんの前段階ともいえる「慢性萎縮性胃炎」を調べます。 (なお、この検査は進行癌や未分化型腺癌などには向いていません。)	2,200円	採血
OP26	心不全 マーカー検査	NT-proBNP 検査	NT-proBNPは、心筋ストレスにより増加するproBNPに由来するものであり、NT-proBNPを活用することで糖尿病、高血圧の方の心不全の早期発見に有効な検査です。	2,200円	採血
OP21	前立腺腫瘍 マーカー検査	PSA ※男性のみ対象	PSAは、前立腺上皮から特異的に作られる成分で、糖と蛋白が結合した糖蛋白成分です。異常があるとPSAの値が上昇し前立腺検査の腫瘍マーカーの中でも特に有用性が確認されている検査です。前立腺がん、前立腺肥大などの発見に有効な検査です。	2,200円	採血
OP22	卵巣腫瘍 マーカー検査	CA125 ※女性のみ対象	CA125は、卵巣がん特に鋭敏に反応するため、そのスクリーニング検査や経過観察、治療効果判定の目安とされています。妊娠時や月経期に一過性に上昇します。	2,750円	採血
OP33	消化器腫瘍 マーカー検査 3種セット	CA19-9 AFP CEA	主に膵臓・胆道がんのスクリーニングに用いられるCA19-9、肝臓がんのスクリーニング検査に用いられるAFP、胃がんや大腸がんなどの消化器系がんのスクリーニングに用いられるCEAの3つの腫瘍マーカーをセットにした検査です。	6,050円	採血
OP30	男性腫瘍 マーカー検査 4種セット	PSA CA19-9 AFP CEA	上記の消化器腫瘍マーカー検査3種セット(CA19-9、AFP、CEA)に加え、男性には前立腺腫瘍マーカーのPSAを、女性には卵巣腫瘍マーカーのCA125を追加したそれぞれ4つの腫瘍マーカーをセットにした検査です。	7,700円	採血
OP31	女性腫瘍 マーカー検査 4種セット	CA125 CA19-9 AFP CEA		8,250円	採血
OP34	甲状腺 ホルモン検査	TSH FT3 FT4	甲状腺ホルモン検査とは、甲状腺の病気の有無や、甲状腺のはたらきが正常であるかを調べる検査です。脳下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモンTSHに加え、甲状腺から分泌される甲状腺ホルモンのFT3とFT4の3種を調べます。各項目が基準値内でない場合は、甲状腺のはたらきに異常がある可能性があり、甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症・バセドウ病・橋本病などの疾患が疑われます。	4,400円	採血

オプション検査 <項目・料金表>

消費税
10%

申込コード	検査名称	検査内容	内容説明	料金 (税込)	検査分類	
OP10	生活習慣病追加血液検査(定期健康診断の基本血液検査をご受診の方がお申込できます。)	血液学・炎症反応	血小板数	血小板は、出血したときに血を止める働きをします。血小板の増減には白血病などの重い病気が隠されていることがあります。	1,650円	採血
			MCV MCH MCHC	赤血球の平均的な大きさを示すMCV(平均赤血球容積)、赤血球内に含まれるヘモグロビンの平均的な量を示すMCH(平均赤血球ヘモグロビン量)、赤血球の容積に対するヘモグロビンの平均濃度を示すMCHC(平均赤血球ヘモグロビン濃度)を検査し、赤血球の状態を判定して貧血の診断に役立てます。		
			CRP (定量法)	CRPは、C反応性蛋白とも呼ばれ、組織の破壊や炎症が起こると血液中に現れる物質です。急性肝炎、心筋梗塞や血管閉塞などの虚血性疾患、関節リウマチなどの診断にも用いられます。		
		肝機能	総蛋白	総蛋白は、血清に含まれている蛋白の総称です。肝臓や腎臓の障害などで体内の代謝などに異常が生じると、値が変動します。		
			総ビリルビン	ビリルビンは、赤血球中のヘモグロビン(血色素)から作られる色素です。血清中にビリルビンが増加すると皮膚は黄色になり、これを黄疸と呼びます。肝機能検査の重要な指標となります。		
			アルブミン	アルブミンは、肝臓以外では作られません。そのため肝機能が低下するとアルブミンの生成量も低下し、血液中のアルブミンも低下します。その低下の程度で病気の重さを判定します。		
			ALP	肝機能障害により胆汁の流れが阻害されると、胆汁中に存在するALPが血液中に漏れ出し、数値が上がります。またALPは骨でもつくられているため、成長期の子どもや骨の病気などでも数値が上がります。		
		腎機能・痛風	尿素窒素	尿素に含まれる窒素分を尿素窒素といい、体内で代謝された蛋白質の老廃物です。腎機能が衰えると、血中の尿素窒素が高くなります。		
			e-GFR (クレアチニン)	血清クレアチニン値と年齢・性別から推算糸球体濾過量(e-GFR)を推算します。この値は老廃物を尿へ排泄する能力が腎臓にどのくらいあるかを示すもので、値が低いほど腎臓の働きが悪いということになります。		
			尿酸	細胞中の核酸の代謝によって生じた燃えかすで、腎臓でろ過され尿中に排泄されます。尿酸は血液に溶けにくく、多すぎると針状の結晶となって関節や腎臓にたまり、痛風や腎障害・腎臓結石の原因となります。		
膵機能	アミラーゼ	血液検査で唯一膵臓の異常を知る手がかりがこの検査です。アミラーゼは、主に膵臓と唾液腺から分泌される消化酵素で、でんぷんなどの糖質を分解します。膵臓に異常が起きると血液中のアミラーゼが高値となります。				

★ この生活習慣病追加血液検査は、定期健康診断の基本血液検査の受診が必須です。